

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点(A+)
	評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	○非該当	
●あり ○なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	○非該当	
●あり ○なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	○非該当	
【A+の取り組み】 ●あり ○なし			
絵本を通じた子どもたちの発達を促すため、毎年200冊程度絵本を購入し、園内の絵本の充実を図っているだけでなく、絵本の貸し出しを行い、家庭においても絵本にふれる機会を増やす支援をしています。絵本の貸し出しについては、年間2000冊前後の実績があり、家庭に対する支援も順調に実を結んでいるといえます。			
評価項目1の講評			
<p>外部講師による体育指導を実施しています</p> <p>外部からの体育講師を招き、毎週水曜日に4・5歳児を対象に体育指導を実施しています。また、運動会においては、その成果を保護者の方に披露しています。昨年から取り入れられたこのプログラムにより、子どもたちが落ち着いて物事に取り組めるようになったなど、活動の成果が現れています。</p> <p>絵本の充実、貸出など、子どもの発達を促すための環境を充実しています</p> <p>各クラスに設置している絵本の充実に加え、貸し出しを行うなど、子どもの発達を促すための環境の充実に取り組んでいます。こうした取り組みに対し、職員自己評価では、9割が肯定的な評価をしており、園長をはじめ、職員一人ひとりが意識的・積極的に取り組んでいる姿勢がうかがえます。</p> <p>関係機関との連携により、障害がある子どもの保育に取り組んでいます</p> <p>障害がある子どもや気になる行動がみられる子どもの保育については、専門機関と連携を密に図りながら対応しています。発達支援センターの専門家が、特別な保育指導により、保育士が現場の事例から学ぶ機会を用意し、子どもの特性に配慮した保育の提供体制を整えています。</p>			

2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点(A+)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	○非該当
	●あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	○非該当	
【A+の取り組み】 ○あり ○なし			
米中心の献立など園独自の取り組みを行っている他、栄養士が各クラスを巡回し、イラストを使って食材の解説を日常行っており、また、魚の解体を見学するなど、子どもたちがより食に関心をもちやすい様な取り組みを行っています。			
評価項目2の講評			
<p>園独自の食事の取り組みを進めています 今年度においては、米飯中心の献立を取り入れるなど、園独自の取り組みも行われています。なお、アレルギーを持つ子どもや離乳食の子ども、食事に際し刻み等特別の配慮が必要な場合などは、個々の内容に応じた食事が個別に提供されています。利用者調査では、食事に対する評価は、ほぼ全員が肯定的な評価をしていることから、取り組みを確認することができます。</p> <p>桜の木の下での食事、バイキングなど、楽しみながら食事ができる環境を提供しています 楽しみながら食事ができる様に、5歳児のバイキング、桜の木の下やテラスでの食事などを取り入れています。また、食事の際に子どもたちが食べやすいよう、イスやテーブルの高さについても配慮がなされています。</p> <p>栄養士による食育の充実が図られています 日々の献立に対する子どもの評価を確認するため、栄養士が各クラスを巡回し、反応を把握しています。その際、その日のメニューについて、イラストを使って解説を行っています。また、イラストだけでなく、本物を体験する為、本年度においては、プロを呼び魚の解体の見学を行うなど、栄養士による食育の取り組みが、毎年の様にひろがっています。</p>			
3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をするしくみがある	○非該当
	●あり ○なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	○非該当
	●あり ○なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし			

評価項目3の講評

子どもの健康状態は、看護師が毎日把握しています

日々の子どもの健康状態の把握は、登園時の状況の確認、常駐の看護師が毎日各クラスを巡回しているほか、乳児の午睡時には、「午睡チェック表」を用いて一定時間毎の状態確認を行い記録しています。また、尿検査を取り入れた定期健診や身体測定等の結果は「健康カード」に記載して保護者へ報告しています。その他、アトピー等の医療ケアが必要な子どもに対しては、与薬表を用い対応を行っています。

手洗いの指導、歯磨き指導を積極的に行っています

3歳以上を中心に、外から帰った後や給食前の手洗い指導やパネルシアターをみながらの歯磨き、区の歯科衛生士の協力を得ながら行う歯磨き指導など、保健指導に積極的に取り組んでいます。

法人3園の看護師が連携を図り、健康づくりに取り組んでいます

保健指導については、法人の3つの保育園の看護師で構成される看護師会で検討されたことをもとに、園の実践活動をおこなっています。看護師会では、東京都社会福祉協議会・保健部会など、他機関との連携を図り、積極的に情報収集を行い、感染予防を含めた様々な情報を保護者に提供しています。

評価項目4

園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など)	○非該当
●あり ○なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている	○非該当
●あり ○なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	○非該当

【A+の取り組み】 ○あり ●なし

評価項目4の講評

異年齢児交流、各種催し物など、多様な保育活動に取り組んでいます

誕生会は、一人ひとりの日にあわせて実施している他、園内活動として、お散歩時などの異年齢児交流をはじめ、「みんなであそぼう」「秋まつり」「お楽しみ会」など、子どもの発達を促す活動や催し物が取り入れられています。また、公開をしている「お楽しみ会」は、保護者が子どもの成長を確認する場ともなっています。

手作りの木製玩具等により、暖かさ、落ち着きを感じさせる園内環境となっています

ママゴト遊びなどで使う手作りの木製キッチンをはじめ、手作りで室内環境を整えている箇所が数多くみられ、既製品にはない暖かさを感じるとともに、安全性に対する工夫もされています。

午睡については、個々の状態に合わせた配慮を行っています

食事、睡眠、運動、排泄などは子どものリズムにできるだけ合わせる配慮を行い、午睡については、早く寝たい子、目が覚めてしまう子がそれぞれ快適に過ごせる場所を確保して対応しています。また、年長児については、就学前には午睡をやめ、学校生活にすぐになじめるよう配慮しています。

5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある	○非該当
	●あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている	○非該当
	●あり ○なし	5. 保護者からの相談に応じる体制を整えている	○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目5の講評			
<p>行事ごとにアンケートを実施し、保護者の意見を反映しています</p> <p>運動会は土曜日の開催、秋まつりは夕方から開催するなど、一人でも多くの保護者が参加しやすい様に日程を調整しています。また、運動会、お楽しみ会などの行事ごとに感想アンケートを実施し、出された意見を集約して、次年度の開催日程等を検討しています。</p> <p>個人面談をはじめ、保護者からの意見を大切にしています</p> <p>個人面談の充実や意見箱の設置など、保護者との意見交換に積極的に取り組んでいます。これらの取り組みは、利用者調査の「職員との相談」に対する評価でも9割弱が肯定的な評価をしていることから、成果を確認することができます。一方、「保護者の考えを聞く姿勢」については、3/4が肯定的な評価をしており、他の項目と比べて低くはないものの、改善の余地が残されていることから、継続的な取り組みを行っていくことにより、さらなる成果が期待されます。</p> <p>クラスだより、写真等を活用し、子どもの生活の様子を伝えています</p> <p>クラスだよりに加え、園では、行事や日常生活をたくさんの写真で伝えています。園での自然な姿を写す写真が多く、子どもたちのいきいきとした姿がリアルに伝わる情報源ともなっています。</p>			
6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点(A)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
	【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目6の講評

区、関係機関との連携による虐待防止、育児困難家庭への支援に取り組んでいます

虐待については、区と連携を図りながら取り組んでいます。具体的には、区の保育課、家庭支援センター、児童館等の関係機関のネットワークを構築し、未然防止や早期発見、継続的な支援につながるよう配慮されているほか、発見時の対応などが職員ハンドブックに明示されており、また、必要に応じてケース会議を開催し、対応しています。

研修等に積極的に参加し、職員間の情報共有を図っています

新人研修をはじめとして積極的に各種研修へ参加しており、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた職員能力の向上を図っています。また、研修報告を会議で発表し、研修で得た情報を職員間で共有することによって、組織として対応能力の底上げがなされるよう取り組まれています。継続的な園全体のスキルアップによって、多様化・深刻化するケースに対応できる体制づくりが期待されます。

保護者会で講演会を開催し、保護者と共通理解を深める取り組みを行っています

子どもの発達等に関しては、現在、虐待防止のポスターなどの情報提供をしていますが、さらに、全体保護者会で講演会を開催し、子どもの発達や虐待防止について保護者と共通理解を深めています。

評価項目7

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(A)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		

評価項目7の講評

地域の就園前の親子を支援しています

地域の子育ての拠点となるよう、就学前の親子を対象に、園庭開放、ふれあい保育の実施、見学の受け入れを行っています。一方、在園児に対する保育の質の向上に力を入れている中で、地域の子育て支援については、積極的とは言えないことから、さらなる充実が期待されます。

世代間交流や地域交流の取り組みが広がっています

本園は都営住宅の1階に位置している特性をいかし、園の催し物に居住者に声かけをするなど、取り組みが広がっています。また、従来、世代間交流は、来園形式で待ちの姿勢でしたが、高齢者デイサービスとの訪問交流をはじめとしています。現在は、やや遠方の施設との交流ですが、近隣の施設との交流に広がっていくことが期待されます。

地域のボランティアや児童館と連携をすすめています

お餅つき会には郷土会の協力、竹馬ボランティア(修理)等のボランティアや、実習生や職場体験を受け入れています。また、地域の児童館の地域行事へ参加するなど、地域連携を進めています。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保護者の声をいかし、積極的に改善、質の向上に取り組んでいます
	内容	各行事後はアンケート調査を実施し、寄せられた声や反省点を園だより等でフィードバックするとともに、次回以降の行事の改善に活かしています。また、常設の意見箱をはじめ、保護者からの意見については、迅速に対応することを心がけることにより、保護者とのコミュニケーションの充実を図るとともに、日常の保育の質の向上に取り組んでいます。生活スタイルや価値観が多様化する中で、全ての保護者が満足できる対応は困難ですが、積極的に保護者の声を聞き、改善につなげていく取り組み等を常に行っていることは高く評価できます。
2	タイトル	地域交流・世代間交流を積極的に広げています
	内容	ボランティアの受け入れ、児童館との連携、高齢者施設への訪問など、地域交流・世代間交流を積極的に進めています。特に、世代間交流については、従来は来園による交流を図っていましたが、施設に訪問する交流もはじめています。また、本園は、都営住宅の1階に位置していることから、上層階の方に園行事の毎に声をかけるなど、ご近所づきあいにも取り組んでいることは高く評価できます。さらに地域での交流を広げるために、近隣の高齢者施設との交流も模索しており、地域の輪が広がっていくことが期待されます。
3	タイトル	保育環境等を充実するため、計画にもとづき毎年着実に実行しています
	内容	園では、子どもたちの発達を促すための新たな取り組みを計画にもとづき実行し、毎年成果を重ねています。平成16年度から取り組んでいる絵本活動の充実については、毎年200冊の絵本を増やすなど計画的に取り組んできた結果、年間の貸し出し数がのべ2,000冊になるなど成果が現れています。また、本年度は、新たに世代間交流、米飯中心の食事、魚の解体の見学(食育)、園庭の固定遊具の設置などを行いました。さらに、これらの新たな取り組みに対する効果を検証し、改善や次の取り組みへつなげることも行われており、高く評価できます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	各専門職としての質の向上や職員一人ひとりの力が発揮できるしくみづくり
	内容	利用者調査では、「子どもの発達を促すための保育」「栄養を考慮した美味しい食事」「健康を維持回復するための支援」「園内が快適になるための工夫」などの保育の基本となる項目について9割が肯定的な評価をしている一方で、職員自己評価では、「職員のやる気」「職員の質の向上」など、人材育成等に関する項目は、他の項目と比較して評価が低いことから、各専門職として質の向上や、職員一人ひとりの力を組織で発揮できるような環境をさらに充実していくことが望まれます。
2	タイトル	地域の子育て支援や地域の福祉ニーズの把握
	内容	ボランティアの受け入れ、世代間交流など、地域に向けた活動を広げている一方で、地域の子育て支援については、就学前の親子を対象に、園庭開放、ふれあい保育の実施、見学の受け入れを行っているものの、さらなる充実が期待されます。同時に、地域の福祉ニーズや福祉事業の情報に関しては、職員自己評価においても、他の項目と比較して、評価が低いことから、一層の充実が期待されます。
3	タイトル	情報共有による子どもの安全性のさらなる充実が期待されます
	内容	現在園では、子どもの安全性確保に関して様々な取り組みを行っていますが、一方で、利用者調査によると、肯定的な評価が7割程度と、他の項目と比較して低く、改善の余地が残されています。今後は、引き続きハード面の対策を充実させていくとともに、職員一人ひとりの日常の気づきをヒヤリハット事例等で蓄積し、安全性確保の改善に反映させていくことが期待されます。